

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成26年7月10日
【四半期会計期間】	第47期第1四半期（自 平成26年3月1日 至 平成26年5月31日）
【会社名】	株式会社柿安本店
【英訳名】	Kakiyasu Honten Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 赤塚 保正
【本店の所在の場所】	三重県桑名市吉之丸8番地
【電話番号】	(0594)23-5500(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 赤塚 義弘
【最寄りの連絡場所】	三重県桑名市吉之丸8番地
【電話番号】	(0594)23-5500(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 赤塚 義弘
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第46期 第1四半期連結 累計期間	第47期 第1四半期連結 累計期間	第46期
会計期間	自平成25年 3月1日 至平成25年 5月31日	自平成26年 3月1日 至平成26年 5月31日	自平成25年 3月1日 至平成26年 2月28日
売上高 (百万円)	9,850	10,419	42,546
経常利益 (百万円)	497	547	2,202
四半期(当期)純利益 (百万円)	259	285	1,141
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	272	291	1,144
純資産額 (百万円)	12,970	12,843	13,026
総資産額 (百万円)	18,464	18,477	18,170
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	20.86	24.06	93.18
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	70.2	69.5	71.7

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第47期より金額の表示単位を千円単位から百万円単位へ変更しております。なお、比較を容易にするため第46期についても百万円単位に組替えて表示しております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクに重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループが判断したものであります。

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税増税に伴う駆け込み需要とその反動がみられたものの、政府の経済政策、金融政策を背景に緩やかながらも回復基調で推移いたしました。

食関連業界におきましては、消費マインドの改善の一方で、消費税増税に伴う可処分所得の実質目減りや各種コストの上昇等厳しい経営環境が続いております。

このような環境の中、当社グループは、食材の市場からの直接買付けによる調達強化・安定、鮮度の向上を図るとともに、生産者の顔の見える食材の拡大を進めました。またこれら食材の強化と並行して加工、料理技術研修を充実させるなど、企業メッセージ「おいしさ、育む。」の具現化を推進してまいりました。

出退店、改装につきましては、「口福堂」12店を含め計14店の出店、2店舗の閉鎖とともに、前期中より改装に着手したものを含め6店の改装オープンにより既存店の活性化を図りました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は10,419百万円(前年同期比5.8%増)、営業利益は544百万円(同9.9%増)、経常利益は547百万円(同10.0%増)、四半期純利益は285百万円(同9.8%増)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(a)精肉事業

これまで家庭の日常使い商品の刷新によるおいしさの向上を継続してまいりましたが、新たに「おかずハンバーグ」を新商品として加え、品揃えを強化するとともに、日常使い商品による均一価格パック、増量パック販促などにより消費税増税後の需要喚起を行いました。

また、「柿安の日」企画を柿安牛やプリンシヤスポークなどオリジナルブランド中心に切り替え、拡販、浸透を進めました。

この結果、当事業の売上高は3,557百万円(前年同期比3.1%増)、セグメント利益は285百万円(同11.2%増)となりました。

(b)惣菜事業

生産者の顔の見える本物の食材を使用した商品の拡充とともに料理技術向上への集合研修の強化を行いました。

また、『料理人が毎日つくるおいしさ。』をキャッチフレーズに主力業態「柿安ダイニング」の15周年企画の投入やお花見企画などの季節ごとの集客を強化しました。

この結果、当事業の売上高は3,110百万円(前年同期比2.8%増)、セグメント利益は250百万円(同4.2%減)となりました。

(c) 和菓子事業

長野県、和歌山県、山形県への初出店を含め口福堂を12店、併せて常磐自動車道（上り線）守谷サービスエリアに「パサール守谷上り柿次郎」を出店するとともに、「口福堂アルカード亀有店」を団子専門店『口福堂だんご』との併設型店舗に改装し新たな店づくりにも着手しました。

また、新商品開発の強化、東京大田市場からの直接買付けルートの整備により主力商品いちご大福の販売期間延長を行いました。

この結果、当事業の売上高は1,799百万円(前年同期比36.2%増)、セグメント利益は223百万円(同57.3%増)となりました。

(d) レストラン事業

“より贅沢な時間の提供”に向け、ビュッフェレストラン「三尺三寸箸」3店（イオンモール各務原店、イオンモール大高店、ラゾーナ川崎プラザ店）の客席を改装によりゆとりを持たせ、併せてスペシャルメニューによる料理のグレードアップを図りました。

また、ビュッフェレストランにおける春の歓送迎会企画やグリルレストランの肉の日企画などにより集客を強化しました。

この結果、当事業の売上高は1,531百万円(前年同期比6.6%減)、セグメント利益は113百万円(同24.6%減)となりました。

(e) 食品事業

中元ギフト商戦へ向けギフトセンターの好位置の確保や各百貨店カタログへの掲載効果向上への準備を行うとともに内祝いや手土産、母の日などのパーソナルギフトの強化を図りました。

この結果、当事業の売上高は420百万円(前年同期比3.7%増)、セグメント損失は12百万円(前年同期は23百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 財政状態に関する分析

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ306百万円増加し、18,477百万円となりました。

流動資産は72百万円増加し、10,417百万円となりました。その主な要因は、現金及び預金が908百万円減少したものの、売掛金が714百万円、仕掛品が220百万円それぞれ増加したことによるものであります。固定資産は234百万円増加し、8,059百万円となりました。その主な要因は、建物及び構築物が147百万円、差入保証金が27百万円それぞれ増加したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ489百万円増加し、5,633百万円となりました。

流動負債は536百万円増加し、4,569百万円となりました。その主な要因は、買掛金が278百万円、未払費用が204百万円それぞれ増加したことによるものであります。固定負債は47百万円減少し、1,064百万円となりました。その主な要因は、長期借入金42百万円減少したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ182百万円減少し、12,843百万円となりました。その主な要因は、利益剰余金が188百万円減少したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更等はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	46,300,800
計	46,300,800

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年5月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年7月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	12,446,700	12,446,700	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	12,446,700	12,446,700	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成26年3月1日～ 平成26年5月31日	-	12,446,700	-	1,269	-	1,074

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年2月28日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 600,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,844,700	118,447	-
単元未満株式	普通株式 1,600	-	-
発行済株式総数	12,446,700	-	-
総株主の議決権	-	118,447	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が300株(議決権の数3個)含まれております。

【自己株式等】

平成26年5月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社柿安本店	三重県桑名市吉之丸8番地	600,400	-	600,400	4.8
計	-	600,400	-	600,400	4.8

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成26年3月1日から平成26年5月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年3月1日から平成26年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

3．金額の表示単位の変更について

当社の四半期連結財務諸表に表示される科目その他の事項の金額は、従来、千円単位で記載しておりましたが、当第1四半期連結会計期間及び当第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。

なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第1四半期連結累計期間についても百万円単位に組替え表示しております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,021	6,113
受取手形及び売掛金	2,441	3,155
商品及び製品	247	316
仕掛品	124	345
原材料及び貯蔵品	167	180
繰延税金資産	221	264
その他	121	41
貸倒引当金	0	-
流動資産合計	10,345	10,417
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,345	3,492
土地	2,282	2,282
その他(純額)	694	730
有形固定資産合計	6,321	6,505
無形固定資産		
その他	119	131
無形固定資産合計	119	131
投資その他の資産		
投資有価証券	196	206
繰延税金資産	246	244
差入保証金	732	759
その他	207	211
投資その他の資産合計	1,383	1,422
固定資産合計	7,824	8,059
資産合計	18,170	18,477
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,222	1,501
未払金	575	461
未払法人税等	528	293
未払費用	926	1,130
賞与引当金	363	543
役員賞与引当金	31	9
その他	384	628
流動負債合計	4,032	4,569
固定負債		
長期借入金	532	490

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
退職給付引当金	16	12
資産除去債務	464	476
その他	98	85
固定負債合計	1,112	1,064
負債合計	5,144	5,633
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,074	1,074
利益剰余金	11,498	11,309
自己株式	817	817
株主資本合計	13,025	12,836
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	6
その他の包括利益累計額合計	0	6
純資産合計	13,026	12,843
負債純資産合計	18,170	18,477

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)
売上高	9,850	10,419
売上原価	5,207	5,383
売上総利益	4,642	5,035
販売費及び一般管理費	4,147	4,491
営業利益	495	544
営業外収益		
受取利息	0	0
その他	6	7
営業外収益合計	7	8
営業外費用		
支払利息	3	2
その他	1	2
営業外費用合計	5	5
経常利益	497	547
特別利益		
固定資産売却益	-	0
特別利益合計	-	0
特別損失		
固定資産除売却損	1	1
減損損失	-	26
特別損失合計	1	27
税金等調整前四半期純利益	496	519
法人税、住民税及び事業税	316	280
法人税等調整額	79	45
法人税等合計	237	234
少数株主損益調整前四半期純利益	259	285
四半期純利益	259	285

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	259	285
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12	6
その他の包括利益合計	12	6
四半期包括利益	272	291
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	272	291
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)
減価償却費	146百万円	149百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月30日 定時株主総会	普通株式	435	35	平成25年2月28日	平成25年5月31日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月29日 定時株主総会	普通株式	473	40	平成26年2月28日	平成26年5月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	3,450	3,025	1,320	1,639	405	9,842	8	9,850	-	9,850
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	344	2	25	4	79	455	-	455	455	-
計	3,795	3,027	1,346	1,644	484	10,297	8	10,306	455	9,850
セグメント利益 又は損失()	256	261	142	150	23	786	1	785	290	495

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 290百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 302百万円及びその他調整額11百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自平成26年3月1日至平成26年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	3,557	3,110	1,799	1,531	420	10,419	-	10,419	-	10,419
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	346	2	29	20	80	479	-	479	479	-
計	3,903	3,112	1,828	1,552	500	10,898	-	10,898	479	10,419
セグメント利益 又は損失()	285	250	223	113	12	860	-	860	315	544

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 315百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 327百万円及びその他調整額11百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「精肉事業」及び「惣菜事業」において、店舗設備の減損損失をそれぞれ5百万円、20百万円計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間において、26百万円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)
1株当たり四半期純利益金額	20円86銭	24円06銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	259	285
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	259	285
普通株式の期中平均株式数(千株)	12,446	11,846

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年7月4日

株式会社柿安本店

取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 谷本 勝則 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 高津 清英 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社柿安本店の平成26年3月1日から平成27年2月28日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成26年3月1日から平成26年5月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年3月1日から平成26年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社柿安本店及び連結子会社の平成26年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。